

たまのまちづくり通信

テーマ

～「新・人流港」へ!～

人が集い交流する瀬戸内の港町 玉野

発行：玉野市中心市街地活性化協議会事務局

〒706-8533 玉野市築港 1-1-3(玉野商工会議所内)

TEL:0863-31-5011 FAX:0863-31-5558

E-mail:info@tamanocci.jp

<http://www.tamanocci.jp/ccam/>

発行日：平成24年4月

玉野市中心市街地活性化基本計画が認定されました

玉野市が策定し、当活性化協議会と協議を重ねていた玉野市中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣によって平成24年3月29日付で認定を受けました。岡山県下では倉敷市について2市目となりました。

対象区域(下図参照)は、JR宇野駅及び宇野港周辺から市役所及びメルカ周辺に至る面積約70haの範囲で、計画期間は平成29年3月までの5年間です。

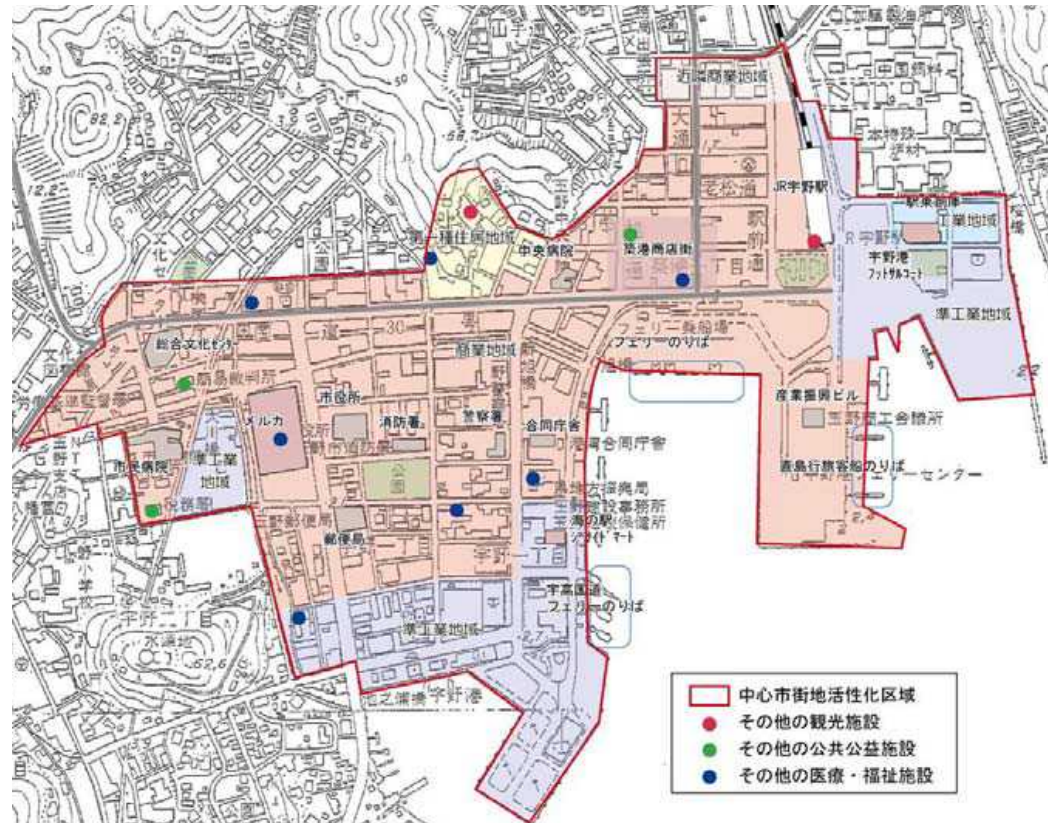
活性化協議会

三宅照正会長の談話

平成21年4月の協議会設立以来、基本計画の認定に向けて取り組んできたことが身を結んで大変喜んでおります。

本市の商業・交通・都市機能の中心である中心市街地の活性化は、ここからが本当の意味でのスタートであります。

今後、基本計画に基づいて行う各事業について、官民が力を合わせて実行し、全国に自慢できるような豊かで賑わいのある街づくりのため鋭意努力をさせていただきます。



認定を受けることによる中心市街地へのメリットとは

- 1、国による支援措置が拡充されます。(市の公共事業への交付金の増額、事業への助成金他)
- 2、街づくり会社・民間企業・NPO法人などが、施設整備事業費又は活性化支援事業費の1/2もしくは2/3(事業規模や実施主体によって変わる)の助成金を申請できるようになります。
- 3、上記の事業により、街の価値が上がり、公共施設や道路・公園・交通などが整備され、暮らしやすい街となることが期待できます。また、観光客や来街者が滞留することで商機が生まれ、街の賑わいととも売上が増加し、雇用や居住への効果も生み出していきます。

瀬戸内温泉「たまの湯」

温泉が出た！

今年の1月、宇野駅前の遊休地において、
昨年10月から開始した掘削工事によって、
約7億年前の地層である花崗岩類を地下
1,027m掘り進んだ地点で温泉脈を捉え、
貴重な療養泉でもある天然温泉を掘り当て
ました。中央温泉研究所による温泉分析
の結果、湯量・温度・泉質ともに十分でした。

泉質：ナトリウム塩化物泉
(カルシウム・ナトリウム、ラドン他)
湯量：毎分140リットル
泉温：30.3



どんな温泉？

- 1、木造平屋造(一部2階建)温泉郷をイメージした庄屋造り風の建物です。
- 2、本格的な日帰り天然温泉です。(スーパー銭湯ではありません)
- 3、和食レストラン、露天風呂、絶景風呂、岩盤浴、麦飯石房、ロウリュウサウナ、塩サウナ、アカスリなど充実しています。

「たまの湯」ができるとどうなる？

- 1、岡山・倉敷方面や島しょ部からも集客でき、アート目的の観光客も取り込める施設であり、既存の施設や商業者と連携を取ることで、経済効果が生まれ賑わいのある街になります。
- 2、施設内にコミュニティブースを設け、各種講座や作品展などの開催や、地元物産品販売コーナーなど、地元住民の役に立つ憩いの場になります。
- 3、「たまの湯」のオープンに続き、敷地内に「親水公園」、「ホテル」、「住宅」を開発していきます。

平成25年3月 オープン予定



いしいひさいち部会

(伊達元英部会長)

ののちゃんの絵を玉野全体へ。

「たまのミュージアム」メルカ2階に、平成24年7月オープン予定

商業施設・メルカ2階に「たまのミュージアム」を24年7月にオープンする予定です。

市出身の漫画家・いしいひさいちさんの「ののちゃん」をはじめとした漫画展示や、ののちゃんグッズと市特産品の販売、市内の観光案内コーナーなどを設けていきます。

玉野市と玉野市観光協会などが施設を整備し、NPO法人「たまの企画」がミュージアムの企画・運営、グッズの販売等に全面協力していきます。

23年度の活動報告

(ののちゃん連載5000回記念イベント 23年8月13日～31日)

朝日新聞連載中「ののちゃん」の掲載が5000回を迎えたことから、記念イベントを行い、全国からファンが駆けつけ大成功を収めました。

(玉野4コマまんが祭り 23年11月3日～6日)

全国紙・地方紙の4コマ漫画を一同に集めてパネル展示する「4コマ漫画サミット」を開催しました。全国でも初の試みとなり、朝日新聞をはじめ多くの新聞に取り上げてもらうこととなりました。

(宇野港スタンプラリー 23年12月10日～24年1月31日)

フェリー乗り場、楽彩工房、駅東創庫、ののちゃんちの4ヶ所を対象に実施。

(天満屋ハピータウン・メルカ巨大4コマ漫画展 24年2月1日～3月31日)

「4コマまんが祭り」で作成した巨大4コマ漫画を、セントラルコートに展示。

(ののちゃんちオープン1周年記念 24年3月3日)

玉野市出身でお茶の水大学名誉教授の“土屋 賢二”先生による講演会を開催した他、「たまの企画1年の歩み」と題したパネル展を実施しました。

(ののちゃんグッズ新作発表)

クリアファイル、ポストカード、メモ付箋、ボールペン、ゴルフボール、キャンディ

24年度の活動方針

・「たまのミュージアム」の運営・・・知名度の向上、来街機会の増加を図る。

・ののちゃんグッズの新商品開発及びグッズのネット販売

・玉野4コマまんが祭り・・・“ののちゃん”を通してより多くの人に玉野の良さを普及する。



うのずくり実行委員会

23年度の活動報告

実行委員長 森 美樹

(うのずくりホームページの立ち上げ)

・昨年8月、「うのずくり」のホームページを開設しました。URL: <http://www.unozukuri.com/>

・「うのずくり」の活動を、BLOGで紹介していますので、覗いてみてください。

(交流イベント「うのきゃん」の開催 。23年8月14日～15日)

・日本各地からコメンテーターを招き、クリエイティブな目線で宇野のことを語る夏キャンプを開催。

(宇野の大掃除 in 東山ビル 23年12月23日)

・空き物件を中心に大掃除することで、街や建物、ひと等の風通しを良くしていく。

(ずくりワークショップの開催 24年3月2日)

・高松市の仏生山温泉で街づくりをしている「仏生山まちぐるみ旅館準部室」代表者による講演。

「うのずくり」とは、・・・「うのに住(す)んで+つくる」

・定住人口・仕事の増加、空き物件の減少

・観光資源・賑わいの創出、アート拠点と連携

・交流拠点の設置と新たなコミュニティの形成

みなと部会

(三宅定子部会長)

宇野港ウォーターフロントの賑わいづくりを行います。

宇野港の未来を担う『小さな子どもたちの手形』

「^{ポート}うの港13」企画

宇野港に設置する宇野港の未来を担う「小さな子供たちの手形」は、去年の10月末“おもちゃ王国”にて粘土板に手形を取り、“王子窯”で焼いて、備前焼プレートに完成させました。

3月25日、設置手形除幕式が、宇野港高潮対策護岸横の広場で開かれ、同港護岸の側面、長さ約40mにわたって張り付けられた2～6歳児104人の手形が、お披露目となりました。

除幕式には、石井知事や黒田市長、親子ら約400人が出席されました。

「小さな子どもたちの手形」 設置手形除幕式



宇野港の未来を担う「小さな子供たちの手形」を残すことによって、宇野港への愛着、にぎわいの創出、また、憩いの場を醸成することにより、子供たちへの親水と防災意識の高まりが期待できます。また、街づくりについての意識啓発につながり、作成した家族や友人を含むリピーターの港への集客を図ることができます。

宇野港高潮対策護岸の「小さな子供たちの手形」設置場所



この護岸に隣接して瀬戸内温泉「たまの湯」が平成25年度3月にオープンすると同時に、第2回「瀬戸内国際芸術祭」も3月20日から開催されることから、多くの観光客や来街者が訪れ、港周辺が大いに賑わうよう様々な関連事業を展開していきます。